



震災・原発事故の中、 地域と共に奮闘する企業

相双、田村地区で奮闘する会員
の姿をお知らせします。

つながろう南相馬。 ふるさと再生、真の復興に向けて。

㈱北洋舎クリーニング

代表取締役 高橋美加子さん

(相双地区)



高橋美加子さん(4月28日)「こっぴどい時こそ笑顔で!!!」

㈱北洋舎クリーニングは南相馬市原町区にあり、福島第一原子力発電所から30キロ圏内。屋内退避地域と指定され1ヶ月半以上。3月11日の地震被害は少なからずありましたが、設備をすぐ建て直し14日からは通常営業に戻す段取りでした。しかし、原発の爆発により急変。地域全体がパニック状態、自主避難する市民多数、7万人の人口が推定1万人まで減りました。当然、営業は難しい状態。放射能漏

れの情報は不足、まったくどんな影響があるかも分かりません。社員さんの命にかかわる問題です。自主避難という自己責任を突きつけられ、家族の説得もあり、やむなく一時的に南相馬市を離れるよう決断しました。
移動しながらも考えていたのは会社の資金繰りこと。一週間後には南相馬に戻ります。会社のものをすべてそのままにしての避難だったため、気がかりで居ても経っても居られなかったとの事。同友会のみんなからのメールや電話がなよりの励みしであり、いろんな情報がタイムリーに入ってくるので、気持ちを落ち着かせることができたそうです。戻ってすぐ資金手当てや支払の対応、雇用を守るための諸手続き、テナント店からの品物などの撤収や、仕掛品の仕上げと立て続けの仕事を



▲本店

こなしました。

4月25日現在、屋内退避も解け徐々に南相馬にも人が戻ってきていますが「緊急時避難区域」はそのままで、元の生活は戻りません。これからは会社運営の本番です。自分の器が試される時と覚悟を決めました。復旧の弊害は「国の制度の壁」であり、次々と出される復興支援と称する金融や雇用の助成政策も、過去の例に倣った基準がそのまま、残念ながら今のところ現場までは届いていません。

高橋さんは「原発事故は人災です。人災は、人間の叡智で防げるもの。だから、真の復興プロジェクトを構築するために、叡智の結集しましょう。そのことこそ、私たちに希望と生きる力をもたらす原動力となるのです」と語ります。

仲間たちと

思いを形にした
「つながろう南相馬」



南相馬の現状「知ってください」東日本大震災南相馬から私たちのメッセージ! 北洋舎クリーニングHPでご覧頂けます。
<http://www.hokuyosha.com/>

現場で奮闘する社員の姿から 「我が社の使命」を学びました。

㈱北海興業

代表取締役 太田正一さん

(田村地区)



▲太田正一さん

当社は田村市滝根町にて一般貨物運送業を営んでおり、福島原発からは33kmの微妙な距離にあります。今回の大地震では致命的な被害は免れましたが、原発事故発生により本日の苦勞が始まりました。主力のお客様も原発から32kmと同じ立場になり、その苦勞をも共有することになりました。私たち地元の中小企業が今ここで踏ん張らなければ、地域そのものが衰退してしまふ。そうならない為にも、最後まで地域で営業し続けなくてはならないとの想いで経営をしております。
そんな中で感じた事の1つに、お客様の工場復旧作業での当社社員の献身的な働きが
あります。原発の水素爆発の度に「山降りろ〜!」の声で一斉に工場から退却し、収まればまた戻って仕事を続ける。そんな彼らの姿に感動すら覚えました。「お客様は神様」ではないですが、お客様の復旧活動を手伝っている社員の姿を見てその通りだと思えました。それは正に自分達の会社を守る為の「戦い」でした。毎日、身震いするほどの恐ろしさの中にあり、目に見え無い物への恐怖心が恐怖心と呼ぶと言った連鎖で、この不安が恐怖に変わっていくプロセスは決して言葉になりません。
そんな過酷な中で必死に戦う彼らを見て私は学びました。「経営者こそが戦いを忘れてはいけません」と。そして今はその思いを社員と共有し一生懸命頑張れる日々感謝をしています。



▲社員と共に(太田さん(左))